

# 企画展「見て、知って！ とやまヒストリー2021」

とっておき埋文講座① ー富山県の旧石器時代から近現代までの歴史を発掘出土品から学ぶー

## はじめに

歴史を学ぶ小中学生に歴史への関心を深めてもらえるように、数多くの出土品の中から特徴的なものを選定して展示しました。

今年度は、教科書では紹介しないような出土品を数多く展示しました。「へえ〜っ、知らなかった。そうなんだ。」と感じていただけるように、解説パネルの中に「おどろきポイント」の吹き出しを設けて紹介しています。また、昨年度から富山県の史跡やちょっとマニアな展示品について紹介した時代解説シートも用意しています。号数も今後どんどん増やしていきます。



それでは、各時代の見どころについて簡単に紹介します。富山県にある数多くの遺跡や貴重な出土品の魅力を感じていただければ幸いです。

## 旧石器時代

県指定有形文化財に指定されている直坂Ⅰ遺跡(富山市(旧大沢野町))の接合資料、立美遺跡(南砺市(旧福光町))の石器などを展示しました。その立美遺跡で見つかった石器のうち約9割が黒曜石製で、その黒曜石は立美遺跡から約530km離れた青森県深浦産です。旧石器人の交易が分かる貴重な出土品です。



## 縄文時代

縄文土器は草創期を除いた5期の土器を展示しました。早期から順に土器を見ていくと、文様が変化したり、簡素化したりしていることが分かります。

ほかには、平岡遺跡(富山市)から出土した球状耳飾、境A遺跡の大珠・玉類

(レプリカ)も展示しました。縄文人は様々なアクセサリーを作っており、縄文人もおしゃれに気を遣っていたことがうかがえます。また、長山遺跡(富山市(旧八尾町))から展示した土偶には、「おさげ髪」を表現したものがあり、縄文人の髪形を知ることができる全国でも貴重なものです。



## 弥生時代

展示した弥生土器と縄文土器を比べることで、弥生土器は表面がシンプルで、米を炊く際に熱効率がよい形へと変化していることが分かります。

稲作に関連した道具として、下老子笹川遺跡(高岡市(旧福岡町))から石包丁を、江上A遺跡(上市町)から鋤や鍬、えぶりといった木製品と火を起こすための火切臼や火切杵を展示しました。また、炭化米は同じく江上A遺跡から



出土した当時の米です。



## 古墳時代

古墳から見つかった副葬品として、加納南古墳群(氷見市)の鉄刀や銅鏡を展示しました。ほかにも、ガラス製で青色のビーズをつなげたネックレスも副葬品として展示しました。

また、この時代の土器は弥生土器から続く土師器に加え、須恵器が登場します。土師器と須恵器を並べて展示したり、パネルで解説したりするなど、違いがはっきり分かるようにしました。



## 古代

この時期は文字資料が急激に増え、文字に関わる道具も出てきます。墨で木の板に文字を記した木簡、木簡の表面を削るのに用いた小刀(刀子)、丸い形をした「円面硯」と呼ばれる硯などを展示しました。

また、小杉流通業務団地No.16遺跡(射水市(旧小杉町))から出土した印仏を展示しました。印仏は日本版画の始まりとも言われています。



## 中世

中世になると武士が登場します。武器である兜や刀のつば、鉄砲(火縄銃)の部品である火鋏や鉛玉を展示しました。

また、貨幣経済の発達とともに大量に輸入された宋銭を展示しました。江上B遺跡(上市町)から出土した「備蓄銭」です。今回、展示してありませんが、大量の宋銭が入った甕や壺もみついています。緊急時のために保管していたにもかかわらず、保管場所が分からなくなって使われなかったのかもかもしれませんね。



## 近世

近世になり、徳川家康が江戸幕府を開いてからは政治が安定し、庶民の間でも娯楽や嗜好品をたしなむ文化が広まりました。

ここでは、主に庶民の生活に馴染みの深い出土品を多く展示しました。煙管や簪のほか、子供のおもちゃである泥面子です。また、桜町遺跡(小矢部市)から出土した下駄と独楽を展示しました。下駄には、鼻緒を通す穴が3つあいているので、観察してみるといいですね。



## 近現代

旧県会議事堂跡の瓦や薬瓶、麦酒瓶、戦中の訓練時に使用された実砲などを展示しています。これらの展示品は長い歴史の中では最近のものですが、未来へ伝える大切な文化財です。

さて、今回の近現代の展示の目玉として、安政5年(1858年)に起きた安政の大地震に伴う大鷹崩れと土石流災害、治水と分県について紹介しています。公文書館、県立図書館と連携し、文献や資料をお借りしました。公文書館からは「越中立山大鷹崩れ洪水全図(複写)」と「富山県設置の太政官達(複写)」を、県立図書館からは「地水見聞録」と「杉木家文書」を展示しました。



「越中立山大鷹崩れ洪水全図(複写)」  
(富山県公文書館所蔵)

## 特設コーナー

「君は知っていたか?—地下に眠るとやまの遺跡—」と題して、県内の遺跡の上につくられた施設を紹介しています。今回は、遺跡の上にどんな施設がつくられているかを当ててもらえるようクイズ形式にしました。また、遺跡だったとは知らなかった驚きの場所を投票してもらうなど、楽しみながら学べるように工夫しました。

## 終わりに

この企画展が、「ふるさと」とやまの歴史(とやまヒストリー)について興味・関心を深める一助になればと願います。ぜひ当センターへお越しください。ご来館をお待ちしています。

(松嶋 隆徳)

